

## 週日の説教

金 大烈 神父 2008年8月19日(火)

### 《お金に縛られず、幸せに生きましょう》

お金をもうけるのは難しいでしょうか、易しいでしょうか？

お金があれば便利なのがたくさんありますね。しかし、今日の時代を生きている私たちにはお金がお金を儲けてくれるのが分かっています。今は、貧しい人がいくら頑張っても自分の目標とするところまでお金をもうけるのは難しい時代です。お金が多くなればなるほどこういう格差は出てきます。アフリカのような貧しい国へ行けば、ほとんどが金持ちではない立場ですから、相対的には金持ちとそうでない人との格差はあまり感じられません。しかし、お金のある国の場合は、お金のある人は、天文学的な考えられないほどのお金を持っているので、相対的な貧しさを感じます。

今日の福音(マタイ 19・23-30)でイエス様は、「金持ちが天国へ入るのは、ラクダが針の穴を通るより難しい」とおっしゃいました。昔、旧約のイスラエルの人たちには、金持ちと言えば尊敬の対象でした。そしてそれは、よい生き方をしたために神様からいただく「福」であると思われていました。彼らには自分が積んだ富について、神様が助けてくださり許して下さったのでこのようになった、という感謝の賛歌がいつも必ずありました。しかし、この時代は、神様が助けて下さってこのようになった、という気持ちより自分が頑張ってきたのでこのようになったと考える人がほとんどです。神様に感謝しながら自分の富を見ることができれば、自分がもうけた富についてどのように分かち合えば社会に返すことができるかすぐに分かります。しかし、自分の力によってもうけたお金だと思っものは絶対にそれを手放さずに握ってお墓に入ります。

善い金持ちは分かち合うことができ、幸せを感じていましたが、望ましくない金持ちはいつも奪われないように緊張しながら周りを見張らなければならないです。大企業の場合もいつも緊張しなければなりません。そして一番お金持ちだといわれるアメリカの場合も日本のバブルよりももっと深刻な状態に陥っています。アメリカは、いろいろな経済的な問題があり、まだ回復はできないだろうと経済学者たちは言っています。

では、私たちは富をどのように見ればよいのでしょうか？ 富は必要なものです。できるだけたくさんの人たちがみんな例外なしに富を持って豊かな生活をするのが神様のみ旨です。しかし、人間のおろかさによってそれができなくなってしまったのです。以前、福音の中で5000人以上の人々を食べさせた奇跡についてお話ししました。私たちが分かち合うことをできなければ、「富」は「富」としてその光を輝かせることは絶対にできません。分かち合うことによって私たちは富の恵みを感じながら生きることができるのではないかと思います。

今日の福音(マタイ 19・23-30)でイエス様がおっしゃったことは、金持ちが悪いということではありません。またこれは、実際にお金を持っている人だけの話でもありません。お金のない人にも、お金がないのでお金をもうけようとしている私たちにもあてはまる話です。私たちはなぜお金をもうけなければならないのか、考えましょう。お金というものは私たちにとってどういう意味があるのかをはっきり分かってほしいです。そういう心でなければ私たちはお金に縛られてお金の奴隷になってしまいます。貧しくても心は幸せに生きてほしいです。たくさんのお金を握って、いつも不幸な日々を過ごす人は、本当の意味では金持ちではありません。貧乏より貧しい人です。イエス様がおっしゃったのは、「物があるところには必ず心がある」という言葉とつながります。私たちは、「何のために」「何を求めるのか」、求めたものを「何のために使うのか」、ともに考える知恵によってその富の意味が生かされると思います。

皆様、今日の福音(マタイ 19・23-30)を通して、皆様は幸せです。あふれるほどたくさんのお金は

持っていなくても、心配してあげる人もいるし、懐かしがる相手もいるし、やりたいこともあるし、分かち合える相手もいます。皆様は幸せです。

こういう心を保ちながら私たちはお金に対して考えることが必要です。お金は私たちのために作られたものです。お金のために私たちが作られたわけではありません。物によって私たちの心が縛られないように。いつも自由になるという心の持ち方が必要ではないかと思います。

ありがとうございました。